

防災ひろば in チ・カ・ホ」を開催します。

このイベントは、このほど設置された、北海道開発局、札幌管区气象台、北海道の三者がプロジェクトリーダーとなる協働プロジェクト推進チームにより企画されます。

札幌市駅前通地下広場（チ・カ・ホ）を訪れる多くの方々を対象に、日常生活の中で災害への備えを考えるきっかけとしてもらうことを目的としており、今年度で3回目の開催となります。これまでも多くの構成員の協力により、皆さんに楽しく防災を学んでもらう場となりました。

イベントでは、ステージイベントを実施し、展示ブースを開設する予定です。プロジェクトの進行状況は、このメールマガジン等で随時お知らせいたします。

■協働プロジェクト「北海D o 防災かるた」は内容検討が進んでいます！

「北海D o 防災かるた」について、かるたの読み札の文案を構成員の皆様にご募集したところ、400件を超える応募をいただきました。ご多忙の中、ありがとうございました。

このほど、かるたの内容や普及策を検討する検討会が立ち上がり、10月19日に第1回検討会議が開催され、応募いただいた案からかるたの読み札として採用する文を選定していきました。

和やかな雰囲気の中、北海道に暮らしていく中で欠かせない防災知識を子ども達が楽しく遊びながら学べるよう、検討会では活発な議論が行われました。

北海D o 防災かるたの検討状況については、道の防災教育フェイスブック等で随時お知らせしていきます。ご期待下さい。

■協働シンポジウムは10月28日（金）開催です！

本ネットワーク構成員が一堂に会し、防災教育のアイディアを共有するとともに、新たな協働のきっかけを作ることを目的として、『ほっかいどう防災教育協働ネットワーク協働シンポジウム』を10月28日（金）午後3時より、TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前（札幌市中央区北3条西6丁目・毎日新聞ビル）にて開催いたします。

シンポジウムの出席を希望する構成員の方で、まだ申込みをされていない方は、10月26日（木）の午前中まで追加申込みを受け付けますので、ネットワーク事務局まで電話（011-204-5900）又はFAX（011-231-4314）で至急ご連絡下さい。

協働プロジェクト及び協働シンポジウムについての詳細は、ネットワーク事務局（北海道危機対策課）へお問い合わせ下さい。

【2】イベントピックアップ

11月の防災イベントを紹介！

【札幌市】道庁本庁舎において「津波防災の日パネル展」を実施（11/2、11/4）
道では、11月2日（水）・4日（金）の2日間、道庁本庁舎1階ロビーにおいて「津波防災の日パネル展」を開催します。

このイベントでは、11月5日の「津波防災の日」に合わせて、北海道開発局、札幌管区气象台、北海道立総合研究機構、DCMホームマック（株）の協力のもと、北海道の地震・津波に関するパネルや家庭用の防災グッズなどを展示します。

また、津波発生機や津波堆積物も展示し、津波の発生メカニズムや性質を学ぶことができます。

2日（水）は、9時から17時まで、4日（金）は9時から15時まで開催していますので、ご都合の良い時間に、ぜひお越しください。

【今金町】今金町防災を考えるつどい（11/6）

11月6日（日）、今金町において、「今金町防災を考えるつどい」が開催されます。

このイベントでは、9時半から今金町総合体育館において、まず避難訓練を実施し、11時から14時半の間に、气象台や振興局の職員を講師に迎え、防災気象情報の利活用、水害、土砂災害などをテーマに講演が行われます。

そのほか、自宅や町内会で使える防災グッズの展示をはじめ、北海道開発局の災害対策用車両3台の展示も予定されています。

また、災害が起こったときに使う避難所では、炊き出し訓練も行われます。

避難訓練と講演、展示などを組み合わせることで色々な方々が参加し、防災を考える良い機会となりますので、このようなイベントが各地域で開催されることを期待します。

【帯広市ほか】北海道 防災・減災リレーシンポジウム2016（11/8～）

北海道 防災・減災リレーシンポジウムは、「新たなステージに対応した防災・減災」と題して、11月8日（火）に帯広会場（帯広市民文化ホール）、11月16日（水）に函館会場（北海道大学水産学部）、11月28日（月）に札幌会場（北海道大学工学部）で、いずれも13時半から開催されます。

このイベントでは、北海道大学各大学院の教授陣が、各々の専門分野に照らした講演を行うとともに、防災関係機関等との連携を図りながら、今後の防災・減災対策に関する議論を行い、3会場リレー形式によるシンポジウムを行います。

3会場とも事前申込は不要となっており、入場無料です。

今後、北海道大学公共政策大学院のホームページにおいて詳細が掲載されますので、ぜひご覧になって、お近くの会場にご来場ください。

【札幌市】NPO法人三角山 地域防災保育フォーラム（12/3）

12月3日（土）、札幌市西区八軒のレンガの館ホールにおいて、「地域防災保育フォーラム」が開催されます。

このイベントでは、東日本大震災で園児を喪った保育園の震災時の様子と園児のその後を描いた絵本「あの日」の原画や、防災グッズの展示、非常食の試食コーナーなどが実施されます。この会場展示は、10時から17時までご覧になれます。

12時から、特設ステージで三角山放送局の公開生放送が行われ、絵本「あの日」の朗読を行うほか、13時から、地域で子育て・保育・福祉に携わっている方々をパネラーにお招きし、防災保育を考えるディスカッションも行われます。

地域における防災は、いざというときに住民同志が助け合いながら、いかにして大切な命や暮らしを守れるか、という点にあります。ご家族や隣近所のお友達とご一緒にぜひ足を運んでみてください。入場は無料です。

■その他のイベント情報はこちらから

- ・ネットワークイベントカレンダー（平成28年11月～平成29年3月）

<http://kyouiku.bousai-hokkaido.jp/wordpress/network/>

【3】日本全国！ぼうさいの取組紹介！

日本全国に視点を広げ、特色のある防災の取組を紹介します！

皆さんが行う防災の取組の参考となれば幸いです。

■耳に残る防災ソング「走れタカダイ」（兵庫県）

兵庫県では、11月13日（日）に実施を予定している南海トラフ地震を想定した一斉訓練に向け、日頃からの津波避難に対する意識啓発のため、テーマソング「走れタカダイ～津波避難の歌～」を製作し、このほど動画サイトや兵庫県のホームページで公開を始めました。

この「走れタカダイ」は、兵庫県災害対策課の訓練担当グループの職員4名が作詞、県立高校の校長が作曲し、兵庫県尼崎市出身のデュオ「あまゆうず」が歌っています。

兵庫県によると、作詞の際は、津波からの避難に関するメッセージをいかに簡単な歌詞で表現すべきか考え、また、作曲の際は覚えやすいメロディーにすることを大切にしたいということです。

実際、公開後は「一回聞いただけで覚えられる」「耳に残る」などの感想が届くなど非常に好評で、兵庫県では今後、「走れタカダイ」を多くの県民に覚えてもらえるよう普及に努めるとのことです。

「走れタカダイ」は、以下のURLより聴くことができます。

<http://web.pref.hyogo.jp/kk42/28bousaikunnren.html>

【４】お知らせ

■ 2017年度防災教育チャレンジプラン実践団体の募集について

内閣府（防災担当）の防災教育事業である「防災教育チャレンジプラン」では、全国で取り組まれつつある防災教育の場の拡大や質の向上に役立つ共通の資産をつくることを目的に、新しいチャレンジをサポートするため、そのプランの準備・実践にかかる経費を支援し、実現に向けて防災教育チャレンジプランアドバイザーが相談等の支援を行うものです。

応募資格は、防災教育を一層充実させたいと考えている教育・社会福祉施設（保育施設・幼稚園・学校等）、教育委員会、NPO、民間企業、個人、地域団体（民間事業所、各種団体、行政機関）となっており、過去には、北海道内の団体も採択されています。

詳しい活動例など、下記のホームページをご覧ください。

<http://www.bosai-study.net/boshu/index.html>

応募締切は、11月25日（金）15時となっています。

■北海道シェイクアウトを実施（11/4）

今年の「北海道シェイクアウト」は、当初9月1日午前10時に実施を予定していましたが、多くの道民の皆様が台風10号等による大雨災害への対応や復旧作業にあたられていたことから、実施を延期しました。

今回、「北海道シェイクアウト」の新たな実施日を、11月5日の「津波防災の日」にあわせ、11月4日（金）午前10時に実施することとしました。

なお、当日同時刻に消防庁と気象庁が、緊急地震速報を受信した際の行動訓練を行う予定であり、北海道シェイクアウトは、この訓練と連携した「緊急地震速報シェイクアウト」としても実施されます。

現在、Webサイトで参加登録を受付中です。多くの方々の参加登録をお待ちしています。<http://www.shakeout.jp/event/hokkaido/> 現在の登録者数は、14万6,727名です！

※延期前の9月1日の実施に向けて既に参加登録を済ませている方は、改めて登録を行う必要はありません。

■平成28年度地震・津波防災訓練を実施（11/5）

11月5日（土）、羽幌町において、内閣府と羽幌町・北海道の共催で、「平成28年度地震・津波防災訓練」が実施されます。

この訓練は、北海道北西沖を震源とする地震を想定し、羽幌町中央公民館と離島地区を除く羽幌町津波浸水予測地域において、シェイクアウト訓練や津波避難訓練をはじめ、避難誘導訓練、炊き出し訓練などが行われます。

訓練の参加は、気象台、海上保安庁、警察、消防、陸上自衛隊といった防災関係機関のほか、町内会、消防団、赤十字奉仕団など地域の方も参加し、国と防災関係機関との連携を強化するとともに、地域防災力の向上を推進することで、津波災害時の軽減を図る訓練となります。

【5】ネットワークへようこそ！

今月、日発販売株式会社が新たに構成員に加わり、10月25日（火）現在のネットワーク構成員数は、94（30個人・64団体）です。

<http://kyouiku.bousai-hokkaido.jp/wordpress/network/>

このコーナーでは、参画いただいている皆様の横顔を順次、ご紹介していきます。

【太田 晴美さん】

太田さんは現在、専門職への災害看護学講義のほか、災害訓練の支援など、地域への防災教育を積極的に行っており、また、北海学園大学大学院において、災害に関わる人材育成とネットワークに関する研究を行っています。

小学生の頃に体験した宮城県沖地震の際、家に帰るとサントリー角の空き瓶貯金が散乱し、怖かった思い出が心のどこかに残っていたことが、防災に興味を持つきっかけとなりました。

病院で勤務していた頃には、阪神淡路大震災、松本・地下鉄サリン事件など、日本の災害医療が大きく変わる転換期があり、その後、ユーゴスラビア・コソボ自治州への戦後復興支援や国内外での災害支援に携わりました。

太田さんは、「防災教育協働ネットワークを作るということは、災害知を点から面へととらえて助け合えることになると思っています。また、他職種、世代の方との交流により、それぞれが「できること」「できないこと」を知ったうえで支えあえる場になると考えています。

協働ネットワークには、強みを生かし、弱みを補い、有事の際に生命と暮らしを守る、そんな関係を期待しています。」とお話してくださいました。

太田さんが顧問を努めている「北海道災害看護支援コミュニケーション（EZO 看）」のサイトもご覧ください。 <https://www.facebook.com/ezokan.saigai/>

【編集後記】

先日、韓国のリゾート地として有名な済州道より道議会議員や道職員のご一行が、北海道庁にいらっしやいました。済州道と北海道は、2014年に友好協力協定を締結しています。

韓国では、本年9月12日に南東部の慶尚北道慶州市慶州（きょんじゅ）を震源とした地震が発生したばかりで、今回、北海道の地震対策のヒヤリングしたいとのことでした。

慶州地震のマグニチュードは最大で5.8で、被害については負傷者約20人、建物被害約1,000件でしたが、これは韓国気象庁（当時は「中央観象台」）が1978年に観測を始めて以来最大規模のマグニチュードで、地震の経験が少ない韓国社会に大きな衝撃を与えたとともに、地震対策や発生後の対応について課題が浮上しているようです。

韓国で使っている震度階級は、アメリカでも使用している12段階からなる「改正メルカリ震度階級」で、これによる今回の最大震度は6（強い）です。

なお、過去の最大震度は、1978年の洪城（ほんそん）地震（M5.0）で、震度8だったそうです。

このクラスの地震が珍しくない日本から見ると、プレート境界からはやや離れているものの、隣国でありながらこれほど地震が少ないというのは、やや意外に感じました。

済州道のご一行は防災対策の参考にしたいとのもので、我々の説明を熱心に聞いておられました。済州道は、特に外国人観光客の多い場所ですので、観光客の防災対策を万全にしたいとの思いもあるようです。

朝鮮半島では、地震や津波は少ないものの、先般も発生した台風被害はしばしばあるほか、過去には火山の大爆発もあり、その火山灰は北海道の地層でも確認できるほどです。

一行からお土産に、済州道の守護神「トルハルバン」の小さな石像をいただきました。

この守護神が、韓国のように地震の少ない北海道にしてくれたら・・・と密かに願っています。（Y.K）

=====

発行：ほっかいどう防災教育協働ネットワーク事務局

（北海道総務部危機対策局危機対策課）

・最新情報発信中！フェイスブック「ほっかいどうの防災教育」

<https://www.facebook.com/hokkaido.bousaikyouiku>

・ポータルサイト「ほっかいどうの防災教育」

<http://kyouiku.bousai-hokkaido.jp>